

登壇者プロフィール

中村 聡宏 / 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 代表理事・会長
千葉商科大学サービス創造学部専任講師

東京都出身。1996年慶應義塾大学卒業後、2000年印刷会社に入社、スポーツポータルサイト「スポーツナビ」立ち上げのプロジェクトに関わるなど、広告、出版、印刷、WEB、イベントなど多分野における企画・制作・編集・運営等業務に従事。2002年独立。JOC(日本オリンピック委員会)『OLYMPIAN』をはじめ、競技団体広報誌の執筆・編集も担当。2015年より千葉商科大学サービス創造学部専任講師に就任。2018年一般社団法人日本スポーツマンシップ協会を設立、代表理事を務め『スポーツマンシップバイブル』を著すほか全国各地での講演などスポーツマンシップ教育を精力的に展開する。

小野澤 宏時 / 元ラグビー日本代表

静岡聖光学院中学校、同高等学校、中央大学を経てサントリー、キヤノンに所属。トップリーグでのトライ数は歴代最多数を誇る。また、ラグビー日本代表としてはラグビーワールドカップに三大会(2003、2007、2011)連続出場をはじめ81試合(日本歴代2位)に出場。世界歴代4位となる、55トライをマークした世界を代表するトライゲッター。その後は女子7人制ラグビーチーム「アザレア・セブン」チームディレクターや静岡県教育委員などさまざまな分野で活躍中。

森林 貴彦 / 慶應義塾幼稚舎教諭

慶応義塾高等学校野球部

東京都出身。1996年慶應義塾大学卒業後、NTTに入社。社会人生活を送りながら筑波大大学院に入学、体育理論を学び、慶應義塾幼稚舎の体育教諭に就任。その後、大学通信過程で小学校教員の免許をとり、クラス担任も務めるようになる。その傍ら、慶應義塾高等学校野球部で、前監督・上田誠氏の下、技術指導に携わる。2012年から助監督。2015年秋からは監督として指揮を執る。キャッチフレーズに「エンジョイ・ベースボール」を掲げる同校野球部で、野球を楽しむことを第一にし、自主的に練習に取り組むことで強いチームになれることを実証すべく、小学校の教諭と高校野球部監督の二刀流に挑んでいる。著者に『Thinking Baseball—慶應義塾高校が目指す“野球を通じて引き出す価値”-』

島沢 優子 / スポーツ・教育ジャーナリスト

筑波大学体育専門学群4年時に女子バスケットボール全日本大学選手権優勝。卒業後は、広告制作会社勤務や豪州、英国留学を経て、日刊スポーツ新聞社東京本社へ。スポーツ記者として、サッカー、ラグビー、水泳、バレー、バスケットボール等を取材。1998年よりフリー。『AERA』等で子育てや教育関係、ノンフィクションを中心に執筆し精力的に活動している。

著書は、15歳で脳出血で倒れながら奇跡の復活を果たす高校バスケット選手の姿を描いたノンフィクション『左手一本のシュート—夢あればこそ！脳出血、右半身麻痺からの復活』など多数。